



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127

平成16年(2004年)9月17日 第9号

## 「出会い」と「タマゴ」

「せんせい、ノーベル賞をもらってうれしかった？」

「そりゃもう、うれしかったよ。」

今春、ある講演会での子どもとのやりとりである。子どもたちの素朴な質問に、1つ1つ丁寧に答え、講演の時間が過ぎていった。また、講演会場に入り切れなかった子どもたちのところへ挨拶にいき、休憩の時間がなくなってしまった。

せんせいとは、一昨年ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊先生。

講演後、「11月の豊中でのご講演よろしくお願いします。」とご挨拶に行くと「楽しみにしています。よろしくお願いします。」と愛用の杖とともに会場を後にされた。気さくなお人柄が印象に残った出会いであった。

先生と物理学の出会いは、旧制中学の時、入院し、挫折感を味わっていた時である。「物理学はいかに創られたか」(アインシュタイン著)を恩師の金子先生からお見舞いにプレゼントされたそうだ。『このエピソードが、ノーベル賞受賞の源泉のように報道されていますが、…金子先生との人間的な出会いで得たもののほうが、後の人生においては大きかったように思います。…大好きな先生がくれた本ということで一心不乱にページをめくりました。…金子先生の優しさがひとしお身にしみたことを、今でもよく覚えています。』(「やれば、できる。」より)と後述されている。

また、母校の小学校での講演で『自分のこれからの一生の間に、これやりたい、やり遂げたい、これを理解したい、なんかそういう目標になるタマゴを三つか四つ、いつも大事に持っていて下さい。そうすれば、ある情報を見たときに、「あ、この情報、これを使えば私のこのタマゴは鳥に孵すことが出来るかもしれない」など、自分の必要な情報というのをちゃんと選び出すことが出来るわけ。これはね、大事なことだと思うんですよ』(「心に夢のタマゴを持とう」より抜粋)と子どもたちがこころに夢を持つことの大切さをお話しされている。

この春、先生は、意欲と夢を持った若者を数多く育てることのために力をつくしていきたくと財団を設立された。また、子どもたちを育てる先生たちを表彰したいと小柴昌俊科学教育賞を創設されるなど益々精力的にご活躍されている。

私は、「これまで子どもたちとの『出会い』のなかで、子どもたちに『夢のタマゴ』を育むことの大切さをどれだけ伝えることができていたのだろうか？」と先生のご活躍の知らせを聞くにつけあらためて考えさせられた。

財団の人によれば「先生は、全国いっどこへ講演にいかれるときも、杖をおともにお一人で出かけていきます。よろしくお願いします。」とのこと。小柴先生の特別講演「(仮称)子どもたちに科学するところを」(理科大好きスクール、タッチ・座・サイエンス11月5日(金)市民会館)での出会いを楽しみにしたいと思っている。(十河)

## 障害児教育研修より

### －特別支援教育と校内体制の基盤づくりについて－

8月19日(木)、大阪府教育センター特別支援教育研究室の小田浩伸先生をお招きし、「特別支援教育と校内体制の基盤づくりについて」の講演を行いました。この研修には、市内の幼稚園・小中学校の先生方45名が受講されました。その内容の一部をご紹介します。

#### 特別支援教育とは

〈特別支援教育体制〉：障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して適切な教育的支援を行う

- 従来の特殊教育の対象児童生徒に加えて、LD・ADHD・高機能自閉症等の児童生徒に対する特別支援教育体制の確立
- 義務教育段階における障害教育（特別支援教育）の対象児童生徒は、1. 5%から7～8%に拡大

これについて、小田先生は、LD・ADHD・高機能自閉症等の定義や行動の特徴、それらに対する指導・支援のポイントを事例を挙げて述べられました。

#### 指導・支援のポイント

- 指示やルールは簡潔、明確にする
- よいところを探してたくさんほめる
- こだわりや関心事は、何かに生かす方向へ
- ことばの指示だけでなく視覚的支援も同時に用いる（ことば+絵カード）
- 役割内容は具体的に伝える
- 自己選択・自己決定ができる場面をつくる
- 必要以上の叱責はしない（説明的対応）

また、小田先生は、特別支援教育への転換をスムーズに図るための校内体制の基盤づくり具体策として次の6点を挙げ、それぞれについての説明や、展開モデルの例示を示されました。

- ① 校内委員会の設置
- ② 特別支援教育のコーディネーターの役割
- ③ 指導・支援体制の充実
- ④ 学校以外の関連機関との連携
- ⑤ 保護者との連携
- ⑥ 校内研修・個別の教育支援計画

最後に現在の障害児教育が大きく変わるところとして次の3点を挙げられました。

- ① 盲・聾・養護学校制度の見直し（特別支援学校（仮称）について）
- ② 小・中学校の養護学級の在り方
- ③ 教員免許制度

これらについては、今後の法改正によるところが大きく、未定の部分も多いのですが、法改正を待つ間にもできることから進められています。このことは、従前の文部科学省にはなかった画期的なことです。平成19年度（2007年度）には完全実施される特別支援教育に対する文部科学省の決意の程がうかがわれます。

本研修の受講後の感想として、「特別支援教育の全体にわたり、具体的事例を挙げての内容であり、よく理解できました。今後、校内でどう広げるかが自校の課題です。」「障害に関係なく、子どもたち一人一人の個別に応じた支援がより大切になることを実感しました。」などがありました。また、特別支援教育コーディネーターの姿を明確にした研修、モデル地区の実践等の具体的な取組みを事例とした研修や個別の教育支援計画のたて方についての研修を望む声もあり、今後の研修の参考にさせていただきます。

なお、本研修の資料が必要な学校は、養護教育係までご連絡ください。

（TEL. 6844-5293）

## 今年度後半の障害児教育の予定について

### 専門相談員派遣事業

例年の津田仁美先生、吉田くすほみ先生、神戸YMCAサポートプログラムチームの教育士等を各校園に派遣し、それぞれの幼稚園や学校の課題に応じた相談事業を10月から始めます。

### 障害児課題研究会

障害のある子一人一人の個に応じた指導を目指して毎年継続型の研究会を行っています。今年度は「授業の工夫」をテーマに5回の研究会を予定しています。個別の授業構成や教材等の工夫を中心に、実践経験のある先生を講師に招き、具体策を探っていきます。（10月から）

### 障害児教育研修（会場はいずれも教育センター）

「コミュニケーションを豊かにするために」（市民公開講座）

講師：言語聴覚士 吉田くすほみ先生 日時：11/16(火) 14:30～

「障害児の性の問題について」

講師：茨木養護学校教諭 芳仲猛先生 日時：11/29(月) 14:30～

## 見る機能（視機能）からの意外なヒント

最近、視機能に問題を持つ子どもたちとLD・AD/HDの子どもたちの状態にはよく似たところがあると言われています。視機能には大きくわけて3つの機能があります。



視機能の入力機能に問題があると、行を追って読むことなどが苦手になりやすく、視覚情報処理機能に問題があるとイメージすることが難しくなるため図形や文字の形の理解、左右の方向認識が苦手になるなどの状態が見られます。また、出力機能に問題があると字を書く・ハサミを使うなどの手作業や運動面が不器用になりやすいようです。このようなことから勉強が苦痛になったり、自信を失ったり、落ち着きがなくなったりと、様々なことにつながります。このように、視機能の問題は私達の日常生活そのものに、実に多岐にわたって関わっています。そのため、視機能の向上は生活能力の向上につながるとも考えられます。

実はアメリカではLD・AD/HDの子どもたちに視機能のトレーニングを行い、着実な成果をあげているそうです。そして、ここ3～4年、日本でも視機能の問題に意識が向けられつつあります。私のかかわっている子どもたちの中にも、ごく簡単なトレーニングを受けて視機能が向上したことで、本読みが苦痛でなくなったり、字の形が少し整ってきたり、運動面にちょっとだけ自信がついたり、集中力がついたり、落ち着きが出てきたりとプラスの力につながったケースがあります。

ただ、視機能の向上で全ての問題が解決するわけではありません。そのことは視機能の専門家であるオプトメトリストからも言われています。しかし視機能を向上させることで、結果的に学習能力が高まったり自信を取り戻せたりという効果がみられることは事実です。



オプトメトリストによって書かれた本には、視機能の簡単なチェック方法やトレーニング方法が載っています。(教育センターにもあります。) 子どもたちが抱える様々な問題を考えるとき、視機能について少し意識してみてはいかがでしょうか？意外なヒントが見つかるかもしれません。(迫)